

学生生活の集大成展示

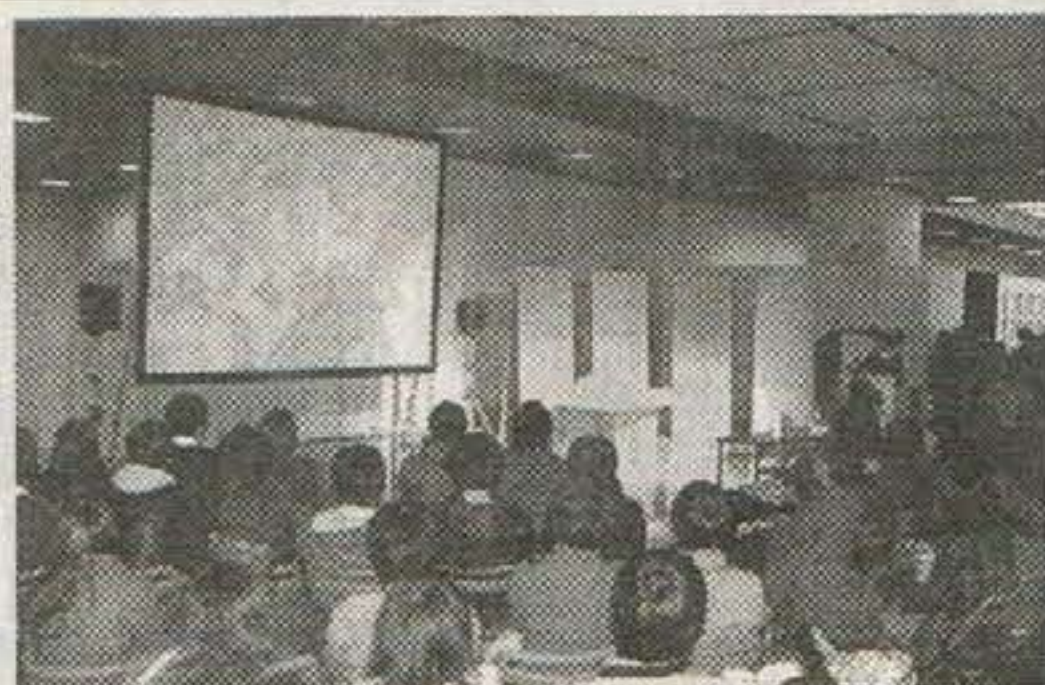
京都工芸繊維大学 卒業・修了制作展開く

京都工芸繊維大学工学部科学部造形工学課程の卒業制作展2011「工芸百貨展」と同大学院建築設計学専攻の第6回修了制作展(協賛・総合資格)が11~13日の3日間、京都市左京区の京都市勧業



会場前に設けられた総合資格のブース

館(みやこめっせ)で開かれた。期間中は学生生活の集大成となる作品の展示と合わせ、ゲスト講師による講評会や講演会などのイベントも開催、会場内は多くの学生や市民らでにぎわった。



講評会の様子

この展覧会は、造形工学課程意匠・建築・文化コースの卒業生と大学院建築設計学専攻の博士前期課程修了生の作品を一 hall に集めて開かれたものの。初日と2日目には大学院の修了制作公開講評会が行われたほか、3日目には造形工学課程の講評会を開催。協賛した総合資格は会場前のブースで訪れた学生に書籍などをプレゼントした。

NO SIGUや、小学校敷地の四隅を盛り上げ、その下に校舎を配置する檜垣政弘さんの「浮かぶ地層小学校」など、デザイン活動家のNOSIGNER氏と東京都現代美術館チーフキュレーターの長谷川祐子氏が事前に選んだ7作品について学生が設計意図や制作意図などを発表。

講評したNOSIGNER氏は「表現だけにこだわるのは良くない。イメージレーションを働かせ、もっと本質的なものと向き合ってほしい」と全体の印象を述べたほか、長谷川氏は「見せるだけでなく、伝える工夫が必要。既視感のある形が多いものの、レベルは高い作品を見せてもらった」と総括した。

また、このあと行われたトークショーでは、「こうしてブツになった」をテーマに、NOSIGNER氏、長谷川氏と建築家の谷尻誠氏(suppose design office)が講演。作品の紹介や自らの経験を交えながら、学生らにエールを送った。